

秋田市教育委員会 会 議 録

令和 6 年 1 2 月定例会

記録者

秋田市教育委員会令和6年12月定例会会議録

1 日 時 令和6年12月26日（木曜日）
午後3時30分～午後4時25分

2 場 所 5－A会議室

3 出席委員 教育長
教育委員
教育委員
教育委員
教育委員

4 出席職員 教育次長
副理事兼総務課長
副理事兼生涯学習室長
総務課参事
学事課長
学校教育課長
教職員室長
教育研究所長
学校適正配置推進室長
総務課長補佐
生涯学習室長補佐
総務課副参事
生涯学習室副参事
教職員室主席主査
総務課主査
総務課主事

5 議 題

【協議事項】

(1) 令和6年度秋田市教育委員会学校訪問の総括について

【教育長等の報告】

- (1) 令和6年11月市議会定例会の審議状況について
- (2) 令和6年度「二十歳（はたち）のつどい」の警備について

6 議 事 午後3時30分開会

【令和6年11月定例会会議録の承認】

令和6年11月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

教育長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

【協議事項】

- (1) 令和6年度秋田市教育委員会学校訪問の総括について

教育長 協議事項(1)「令和6年度秋田市教育委員会学校訪問の総括について」、事務局から説明願う。

教職員室長 (資料に基づき説明)

委員 実際の授業を見学した後に教職員と懇談する流れは、非常に良いと思うので、今後も継続してほしい。学校訪問は、会議だけでは分からない実際の現場の状況が分かるため、非常に重要である。また、懇談では、各学校で不登校の問題について悩んでいるという話題が多く上がった。その影響もあり、前年に比べ、保健室経営が話題に上がっていると感じた。

そのほかには、子どもに自信を持たせる、自己有用感、小中連携および小1ギャップなど不登校に関連する話題が多かったように感じた。

給食は、校長先生との会話の中から気付くこともあるとても大切な時間であるため、今後も続けてほしい。個人的には、「まるごと秋田を食べよう給食」で、秋田の食材を使った給食を食べることができたのが、非常に良かった。

委員 新型コロナウイルスの影響もなくなり、学校に活気が戻っ

てきたと感じた。また、古い校舎を綺麗に使っており、掲示物のレイアウトにも工夫を感じた。図書室は、司書による工夫もあり、子どもたちが利用したい、本を読みたい、新しい発見に出会いたいという雰囲気作りをしている学校が多くあった。本県や本市は、読書活動に力を入れているということもあり、非常に図書室が印象に残った。

I C Tについては、これまでは使うことが目的となっているような節もあったが、先生たちの工夫や情報共有によって、板書と連携させながらハイブリットで行うという工夫が見られた。来年度は、子どもたちが自由にタブレットを自宅に持ち帰って使う環境作りが必要だと思う。保護者もどのような使い方をしているのか興味を持っていると思う。子どもたちがタブレットを使い、どのようなことをしているかなどを保護者に話し、それがコミュニケーションにつながれば、持ち帰りも有効ではないかと思う。

また、千秋美術館においては、詳しく説明してもらい、とても良かった。市民の皆さんや子どもたちの豊かな心の醸成に結び付くのではないかと思うので、どんどん利用できる体制を作ってほしい。

教育長 タブレットの持ち帰りのルールは、どのようになっているのか。

学校教育課長 タブレットの持ち帰りに関しては、教育委員会から保護者や学校に一定のルールや基準を伝えている。細かい部分は、学校が家庭の状況も考慮し、示している。今後の運用については、学校にそれぞれの状況を確認しながら、より良いものになるようにしていきたいと思っている。

教育長 持ち帰りが意味のあるものになるよう、お願いします。

委員 校舎の掃除もしっかりと行き渡っており、丁寧に使っているように感じた。校長先生から、地域との連携を密に行っており、それが特色のある学校作りにつながっているという声

もあった。現在、文部科学省が推進する「チーム学校」として、保護者や地域の力を生かしながら子どもたちを育てていく動きを感じ取ることができた。また、秋田市で実施している諸調査等のデータが指導に活用されており、良い調査がなされていると感じた。

I C Tについては、使うことが目的ではなく、いかにI C Tを有効に学びに活かしていくかが大事だと思う。今回の学校訪問では、個別最適な学びや協働的な学びにつながるよう意識していると感じた。その背景には、教育委員会からI C Tの研修に担当者が出向いたり、教職員研修会で工夫された研修を実施するなど、意識化が図られていることがあると思う。

次のステップは、家庭に持ち帰り、いかに日常化が図られていくかということが大事になってくるかと思う。子どもたちが情報モラルやメディアリテラシーの教育とも併せながら普段使いができるような力を身に付けていくことが、今後、必要になっていくと感じた。

また、全国的にも増加している不登校について、話題が多く上がった。未然防止に向け、子どもに自信を持たせたり、自己有用感を高めることに視点が置かれていることが伝わってきた。一人ひとりに寄り添った対応ということで、学校に登校できない子どもに対しては、オンラインで対応する工夫も見られた。また、学校に登校して学びたいという子どもに別室で支援する体制において、人手が足りないという声も聞かれた。登校したいという子どもの要望に応じる人員配置ができれば、一人ひとりに寄り添った対応の具現化がなされていくのではないかと思う。

懇談に若手教員が出席した学校もあり、生き生きと活躍している様子が見られた。その際、若手教員が困ったときは、学年部の管理職が手厚く支援しているという話もあった。新規採用者は、未熟な面も多くあると思うが、技術面や精神面

委員

を学校の中で育てていただければ、ありがたく思う。教育委員会が行っている事業を有効に活用し、学校教育の充実に関連付けているということも見て取れた。

最後になるが、教育施設訪問は、来年も楽しみにしている。

今年度の学校訪問は、小学校、中学校ともに子どもたちが落ち着いて授業を受けているように感じた。班や隣同士など、子どもたちが関わりを持つ授業が多かったように思う。新型コロナウイルスの影響もなくなり、増えてきたのかと思うが、子どもたちが様々な形で学べるということは良いと思う。

タブレットやICTに関しては、様々な点を考慮しながら、持ち帰りを取り入れている学校が増えてきているが、タブレットの持ち帰りに躊躇している学校もあったので、情報共有しながら、積極的に進めてほしい。

幼保小中連携だが、コロナ禍が明けて、昨年頃から特に、小学校で力を入れている学校が増えているため注目していた。小学校の先生が、幼稚園や保育園の様子を見たり、その逆もあつたりと様々な工夫が行われている。子どもたちが、どう育ってきたか、どう育っていくかをそれぞれの先生方が見れるということは、非常に良いと思うので、積極的に進めてほしい。学校運営協議会に所属している園長先生だと進めやすいと思う。地域に幼保がたくさんある場合、やりにくい所もあるかと思うが、必ずしも入ってくる子だけではなく、育ってくる様子を小学校の先生が見れると、小1になってから、こういった場面でつまずきやすいか、どういう所を補助してあげれば良いかということも分かると思うので、それぞれの育ちを見てほしい。また、小中連携に関しては、今後も継続してほしい。

不登校について、中学校に関しては、校内教育支援センターが充実していると感じた。タブレットを使つての授業や自己学習など、先生方が時間を工夫して誰かが入るという形がで

きていた。

小学校に関しては、校内教育支援センターの設置率が50%程度である。養護教諭や管理職がメインで担っている現状であるが、常に校内教育支援センターに教員がいれば良いと学校側からも話が出ていたので、進めてほしいと思う。学校に来れない場合も外部としっかり連携しているということであったため、きめ細かな支援を継続してほしいと感じた。

千秋美術館については、当日、中学生の職場体験もあった。作品についても、静かな環境の中でゆっくりと鑑賞できたので良かった。今後も魅力的な作品や企画を進め、たくさんの方に来館してほしい。

教育長 タブレットの持ち帰りについて、各校で取組を紹介し合う機会はあるか。

学校教育課長 特別に研修会等は設けていないが、ICT活用推進委員会等でも話し合いを行っているので、その結果等を学校に情報提供していければと思う。

教育長 教育委員会が情報提供することも考えられるので、お願いします。

「秋田っ子・あい調査」から子どもたちの状況も分かり、効果があったと思う。その結果を基に、学校が取組を考えるということができたことは、良かったと思う。

学校教育課長 幼保小の連携協議会は、ブロックごとに行われているか。
ブロックごとに協議会が行われている。小学校職員による保育参観、幼保職員による授業参観が、令和4年度から令和5年度にかけて増えている。特に、幼保職員による授業参観は、令和4年度は、30%程度の実施であったが、令和5年度は、60%に増えている。令和6年度の集計は、まだ行っていないが、さらに増え、内容も充実してきていることが想定される。

教育長 若手教員に技術や教育に対するものの見方などをどのよう

に継承していくかも大事だと思う。若手教員向けの研修についての取組や今後に向けて、どのように考えているか。

教育研究所長

教育研究所では、若手教員、中堅教員の育成を研修の重点の1つに挙げている。現段階では、若手教員が非常に多く、中堅教員が少ないという状況だが、来年度以降は、中堅教諭等資質向上研修の対象者数が増えてくるという状況であり、若手教員を対象にした研修を手厚くしているほか、若手教員研修会と中堅教諭等資質向上研修をリンクさせるなど、中堅教員に自分もミドルリーダーである意識してもらえよう心掛けている。若手教員向けの研修については、今後も充実させていきたい。

※ 協議事項(1)については、以上のとおり終了した。

【教育長等の報告】

(1) 令和6年11月市議会定例会の審議状況について

教育長

報告(1)「令和6年11月市議会定例会の審議状況について」、事務局から説明願う。

副理事兼総務課長

11月28日から12月23日までの期間で開かれた11月市議会定例会の審議状況について、報告する。

はじめに、本会議における一般質問においては、不登校児童生徒の学習の機会や多様な学びの場の確保のため、どのような取組を行っていくのかについて質問があり、現在の教育支援センター「すくうる・みらい」などのほか、オンラインによる学習支援や校内教育支援センターの整備など、多様な学びの場の提供に努めて行く旨、答弁した。

次に、12月16日の予算決算委員会教育産業分科会において審議された令和6年度11月補正予算については、日新小学校の外構工事に係る繰越明許費設定に関して、今後の労務費や資材費の高騰による工事費の増額について質問があり、

外構工事は、一括発注の入札を行ったところ不調となったことから、分割発注するとともに予算の繰越を行うこととなった経緯があり、その際に業者から、工事費の金額は予算額で問題はないことを確認している旨、答弁した。

同日開催された教育産業委員会においては、「秋田市立学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する件」について審議され、原案のとおり可決すべきものと決定されたほか、陳情として提出された「市立小・中学校給食費無償化と学校給食への安心、安全な地場農産物の活用について」は、不採択とすべきものと決定された。

以上の補正予算案、条例改正案等の議案については、12月23日の本会議において、原案どおり議決された。

また、所管事務として「学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について」を報告した。

委員

市議会議員は、市民の声を反映しており、その中でも、教育に市民の関心が集まっていると感じた。災害対応や防災対応における学校の立場や、避難所になった際、どのように対応するのかという議論もあり、今後、どう対応していくのかも課題になってくると感じた。能登半島地震や本市にも大きな被害のあった大雨などに対して、どのように運営していくのか、これからの学校の役割の1つとして考えていく必要があると思う。

部活動の地域移行についても質問が多く出ており、保護者、地域の皆さんに理解を求めていく必要があると感じた。神戸市は、完全に別のやり方で運営している。神戸市は、政令指定都市であるため予算規模の違いもあるとは思いますが、本市はどのように進めて行くのかを丁寧に説明していかなければならないという感想を持った。

教育長

地域の防災に関して、学校施設を避難所として運営することについて、避難所の在り方自体を主体となって考え

るのは、防災安全対策課となるのか。

副理事兼総務課長 今後、避難所となる施設にキーボックスを配置してはどうかという質問があり、避難所を速やかに開設する方策と併せて検討していく旨答弁した。小中学校が避難所として使用される場合、解錠するのは教育委員会の職員や先生であるが、その後の運営については、関係課等と話し合っていかなければならない。

教育長 避難所の開設は、学校の職員が協力することがあるとは思いますが、教員の本分は、被災したときの子どもたちの安全確認や教育活動の復旧の準備を行うことであるため、いかに運営担当にバトンタッチしていくのが大事だと思う。

※ 報告(1)については、以上のとおり終了した。

(2) 令和6年度「二十歳（はたち）のつどい」の警備について

教育長 報告(2)「令和6年度「二十歳（はたち）のつどい」の警備について」、事務局から説明願う。

副理事兼生涯学習室長 (資料に基づき説明)

委員 警備に関して、昨年度から変更した点はあるか。また、昨年度は、どのような声掛けをしたのか。

副理事兼生涯学習室長 警備については、問題もなかったため、昨年度と同様の体制を組んでいる。竿燈のための通路の拡張以外の変更はない。

かつては、旗を持ち込もうとした例はあったが、持込禁止物品に当たるため、預かることを説明したところ、素直にに応じていただいた。

委員 竿燈は、横の入口から入場して、花道を通るイメージで良いか。

副理事兼生涯学習室長 北側の入口から入場し、4メートルの通路を通る。

委員 竿燈は、とても良い趣向だと思う。横から入場してステージに出るよりも、参加者の間を通ることでお祭りの気分も盛

り上がると思う。そういった意味でも配置を工夫して、当日のイベントの準備を引き続きお願いしたい。

委員 先ほどの旗以外に、禁止物品には、どのような物があるのか。

副理事兼生涯学習室長 危険物、刃物、瓶類、スプレー缶、アルコールおよび動物などの持込みを禁止している。ただし、水分補給のための飲料水が入ったペットボトル、水筒および瓶類については、持込みを許可している。また、拡声器やラジカセなどの大きな音が鳴る物についても、遠慮願っている。

委員 先ほどの旗は、禁止物品のどの部分に該当したのか。

副理事兼生涯学習室長 大型又は大量の荷物も禁止しており、旗は大型の荷物に該当したため、持込みを遠慮いただいた。

教育長 持込みを注意した際、指示に応じなかった例はあるか。

副理事兼生涯学習室長 近年はない。

委員 昨年アンケート調査において、警備に対する意見や要望はあったか。

副理事兼生涯学習室長 警備に対しては、なかった。

委員 参加者も警備体制には、納得しているということか。

副理事兼生涯学習室長 そのように認識している。

※ 報告(2)については、以上のとおり終了した。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐 今後の日程についてお知らせする。1月定例会については、1月23日木曜日午後3時30分から開催する予定である。

教育長 1月定例会は、1月23日木曜日午後3時30分から開催予定とのことである。委員の皆様、よろしくお願いします。

午後4時25分閉会